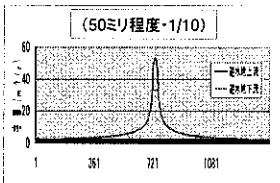
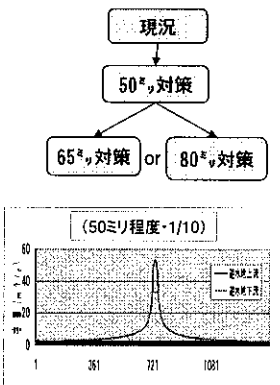


前提条件： 効果(B)－費用(C)を比較

【コスト】「河道のみ」と「河道+遊水池」での費用を算出。

<対策の考え方>大阪府の計画雨量(泉南)を用い、合理式で流量を算出し処理計画を検討。  
50%対策(河川改修)後、65%、or80%対策を実施。  
<対策案>河川改修は、「根継+掘削」(65%対策)、「引堤+掘削」(80%)を検討。  
遊水地は、中流部の農用地等を候補地として検討。

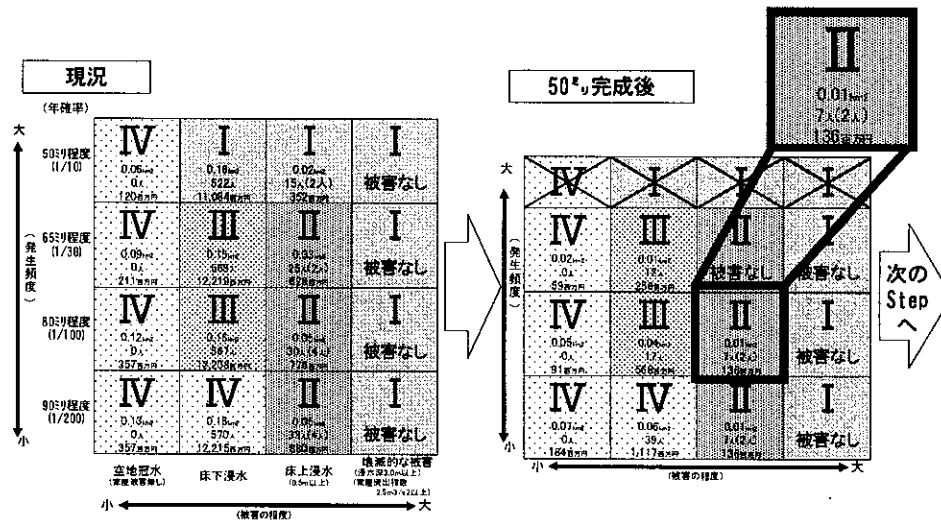


【便益】50% (1/10)～90% (1/200)降雨に対する50%、65%、80%対策の便益を算出。

<算出方法>治水経済マニュアルによる。  
<被害算出> 1洪水を対象に水位がHWLに達すれば上流から順次破堤するとして氾濫解析を行い、浸水深を算出。  
<人命> 242万円/人  
公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針(共通編)(H21. 6)より

検討フロー①

・現況河道および50%対策完成後の被害を把握。  
→危険度Ⅱが残ることから次のステップへ



費用と効果について

効果(B)－費用(C)を比較

・現況から50%対策実施後、65%もしくは80%対策を実施した場合のB-Cを算出。  
・65%対策、80%対策ともに「河川改修+遊水地」の組み合わせが効果的。

【B-C(人命考慮なし)】

		(億円)		処理方法			
				河道		河道+遊水地	
計画目標	現況	54		55			
	⇒50%対策	B	C	B	C		
	⇒65%対策	83	29	83	28		
	現況	40		42			
	⇒50%対策	B	C	B	C		
	⇒80%対策	75	35	77	35		

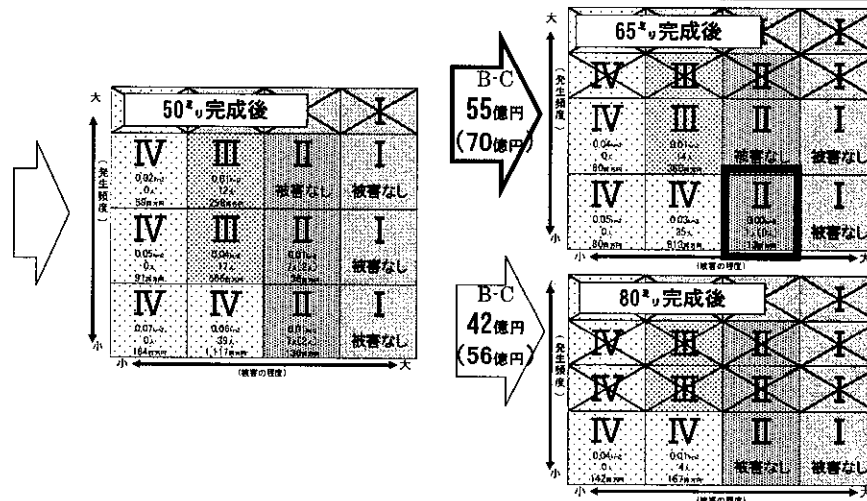
【B-C(人命考慮あり)】

		(億円)		処理方法			
				河道		河道+遊水地	
計画目標	現況	69		70			
	⇒50%対策	B	C	B	C		
	⇒65%対策	98	29	98	28		
	現況	53		56			
	⇒50%対策	B	C	B	C		
	⇒80%対策	88	35	91	35		

治水目標の検討

検討フロー②

・65%対策と80%対策のB-Cを比較  
・65%対策のほうが効率的⇒65%対策に決定。  
・65%対策後についても危険度Ⅱが残る。



# モデル河川の事例<梅川>

## 前提条件：効果(B)－費用(C)を比較

【コスト】「河道のみ」と「河道＋遊水地」での費用を算出。

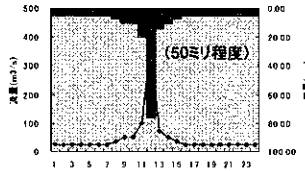
<対策の考え方>大阪府の計画雨量(南河内)を用い、合理式で流量を算出。

50%対策(河川改修)後、65%、or80%対策を実施するものとする。

<対策案>河川改修は、「根継＋掘削」(65%対策)、「引堤＋掘削」(80%)を検討。

遊水地は、中上流部の農用地等を候補地として検討。

<費用算出>河道改修は、梅川下流部の延長あたりの実績工事費から、遊水地は打上川治水緑地の貯留量あたりの実績工事費を参考に算出。



【効果】50% (1/10)～90% (1/200)降雨に対する50%、65%、80%対策の便益を算出。

<算出方法>治水経済マニュアルによる。

<被害算出>

(現況)1洪水を対象に水位がHWLに達すれば上流から順次破堤するとして

氾濫解析を行い、浸水深を算出。(人命被害は考慮しない)

(50%、65%、80%対策後)破堤箇所を現況と同一とし、現況時と対策後の

氾濫流量比を算出。

氾濫流量比を用い、現況浸水深から対策後浸水深を推定。

<人命> 242百万円/人

公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針(共通編)(H21. 6)より

# 費用と効果について

## 効果(B)－費用(C)を比較

・現況から50%対策実施後、65%もしくは80%対策を実施した場合のB-Cを算出。

・65%対策は「河川改修＋遊水地」の組合せ、80%対策は「河川改修」が効果的。

### 【B-C(人命考慮なし)】

(億円)	処理方法			
	河道		河道＋遊水地	
現況	12		13	
⇒50%対策	B	C	B	C
⇒65%対策	17	5	18	5
現況	9		7	
⇒50%対策	B	C	B	C
⇒80%対策	15	6	14	6

### 【B-C(人命考慮あり)】

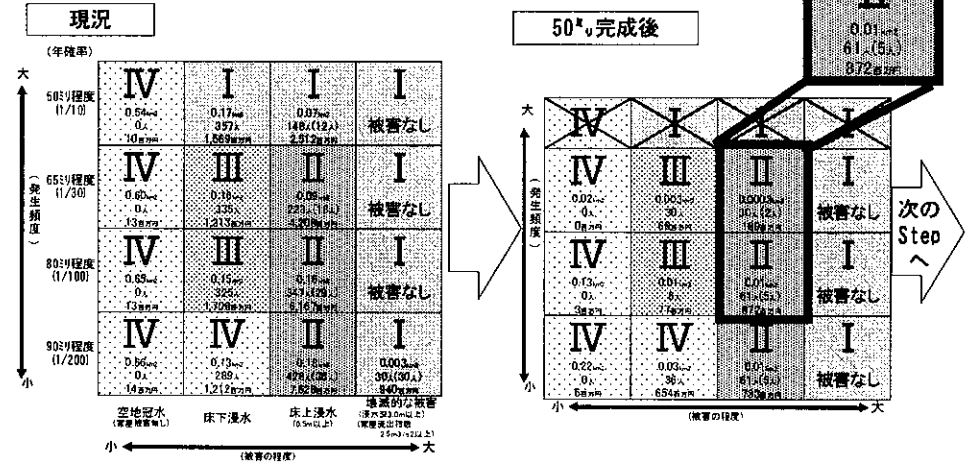
(億円)	処理方法			
	河道		河道＋遊水地	
現況	25		27	
⇒50%対策	B	C	B	C
⇒65%対策	30	5	32	5
現況	20		18	
⇒50%対策	B	C	B	C
⇒80%対策	26	6	24	6

# 治水目標の検討

## 検討フロー①

・現況河道および50%対策完成後の被害を把握。

⇒50%完成後の被害で危険度Ⅱが残ることから次のステップへ



# 治水目標の検討

## 検討フロー②

・65%対策と80%対策のB-Cを比較

・65%対策のほうが効率的⇒65%対策に決定。

・65%対策後についても危険度Ⅱが残る。

